

学習内容と到達目標

☞ 毎日の生活（何をどのくらいの頻度ですか）について話すことができるようになる。

前半：[1. VOCABULARY] ～ [3. FOCUS ON LANGUAGE]（スル動詞の導入）

後半：[4. VOCABULARY] ～ [8. WRITING]（助詞「ヲ」をとる動詞の導入）

指導のポイント

1. VOCABULARY

ここでしっかりと語彙を定着させておく（7語だけなので、それほど時間はかからないはず）。また③では、学習者が答えを書き終えた後に以下のようなやりとりをすることで、これから学習する内容について学習者の意識を高めることができる（事前に予習してきた学生は、文法導入を待つまでもなく、この段階ですらすら答えられるはず）。

会話例

T：〇〇さんは毎日料理しますか。

S：いえ、……。 （動詞の否定形はどうやって作ればいいだろうか？）

T：そうですか。じゃ、1週間に何回料理しますか。

S：2回……。 （「twice a week」ってどう言えばいいだろうか？）

Q. なぜスル動詞を先に教えるのですか？

A. 日常生活における頻度を尋ねる時、「食べる」や「飲む」などの動詞は目的語がなければ、会話が成立しません（例、「毎日食べますか」「(何を?)・・・」）。しかし、スル動詞の場合には「毎日そうじしますか」「ええ、します」のように、目的語がなくても会話が成立するので、より単純なスル動詞を先に導入することにしました。

2. LISTENING

①は必要な情報さえ聞き取れば、OK。②では、「毎日しません」と「毎日じゃありません」の違いに注意。前者は「まったくしない」という意味になってしまう。この頃までには平仮名が定着し、スクリプトを読んで学習項目を視覚的に確認できるようになってほしい。

3. FOCUS

②では、[1. VOCABULARY] の③で回答した内容を [2. LISTENING] のスクリプトを真似てもう一度上記の会話例のようなやりとりを試みる。最初は教師の質問に答える形で進めるが、ある程度慣れたら学生同士でも練習させてみる。

4. VOCABULARY

助詞「ヲ」をとる動詞の導入。暗記が苦手な学生には、よく似た発音の動詞を以下のようにまとめ、覚え方のコツを指導するとよい。

- | | |
|---------|--------|
| 1. かいます | 2. みます |
| かきます | のみます |
| ききます | よみます |

5. LISTENING

①と③は必要な情報さえ聞き取れば、OK。②のスク립トに出てくる「なにか」と「なにも」はここでは語彙として理解していれば、OK（5課で「どこ」を学習した後[3. FOCUS]にこの2つの語彙の違いに焦点を当てた練習あり）。

6. FOCUS

ここで主題の「ハ」について説明する必要はない。「～はどうですか」と聞かれているので、「～は飲みません」と答えているだけといった程度の説明で十分。

8. WRITING

時間がなければ、宿題にする。

活動例

①インタビュー・プロジェクト

☞ 学生食堂に行き、そこで談笑している日本人学生に声をかけてインタビューさせる。テーマは「日本人学生の日常生活」で、[7. PAIR WORK]の練習が終わった後に実施。授業で学習した語彙を使った質問以外に、各自の興味に応じて質問を加えてもよい。ただし、プライバシーには踏み込まないこと（第1課で学習した語彙を使って、名前と学年、所属学部程度のことは聞かせてもよい）。また、相手に不審がられないように、声の掛け方や、これが日本語の授業の一環であることの説明の仕方などについても事前に練習しておく。所要時間は30分程度。スケジュールに余裕があれば、クラス全体で50人以上にインタビューさせ、その結果をグラフや表にまとめて報告させるのもよい。

こぼれ話

結果報告をさせた時、学生たちがインタビューした相手が全員女子学生であったため、わざと女子学生だけに声をかけたのかと思ったら、男子学生は誰1人答えてくれなかったという。女子学生が気軽に答えてくれたのに対し、男子学生は（明らかに暇そうに談笑していても）「今ちょっと忙しいから」と言って、席を立ってしまったとのことであった。近年、女子学生の方が何事にも積極的と聞くと、その気質の違いが現れたのかもしれない。